

花束風の鉢花「フラワートーチ」 育てる喜び 贈る



右から宗尊さん、孝子さん、
紗野花さん

箱根洋ラン園 三島市

【静岡支局】「フラワートーチを通じて、花を育てる喜びを伝えたい」と話すのは、三島市三ツ谷新田にある箱根洋ラン園の内藤宗尊さん(65)。妻の孝子さん(65)、娘の紗野花さん(39)と共にマーガレットや、マーガレットとローダンセマムを交配した「ビジューマム」、ヒマワリ、ミントなどの花きを33坪で栽培する。鉢花や苗を気軽に贈ることができ商品開発を積極的に行う。

▶花束のような外観のフラワートーチ。イチゴの苗取り用ポットで栽培する▼



ギフト商品「フラワートーチ」は、花束のような外観の鉢花。切り花と違い、鉢に植え替えることで長く楽しめる。宗尊さんが「他にはない商品」と発案した。花き市場やパリの生花店で勤務した紗野花さんの経験も生かして試行錯誤を重ね、5年前から市場に出荷する。土は持ち運びを考慮し、保水性が高く軽量のピートモスを使用。切り花を束ねたような見た目にするた



箱根洋ラン園のウエブサイトQRコード

め、細長い形をしたイチゴの苗取り用ポットで栽培し、ラッピングする。「ギフト商品のテーマは『育てる喜びを贈る』。植え替えて育てることで、苗が見せてくれるさまざまな表情を楽しんだり、再び花が咲いた時に贈ってくれた人を出したりしてほしい」と宗尊さんは笑顔で話す。

1月から5月中旬までは母の日向けのマーガレット、その後8月ごろまでは、父の日向けのヒマワリを提供する。育児の傍ら、ウエブサイトを担当する紗野花さんは「花苗の管理方法が分からない人のために、ウエブサイトでも解説している」という。

静岡県東部花き流通センターのマーガレット部会とビジューマム部会にも所属する宗尊さん。今後について「マーガレットや県オリジナル品種のビジューマムをもっと知ってもらい、伊豆半島への恩返しをしたい」と話し、後継者不足など花きを巡る課題解決にも意欲を見せる。(佐藤)